

あたらしくはいった本 (令和4年5月 貸出開始資料から)

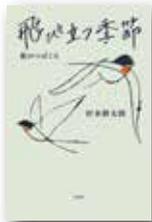
- 小説 わたしたち(落合恵子/著) 筆のみが知る(近藤史恵/著) 凍る草原に鐘は鳴る(天城光琴/著) 掬えば手には(瀬尾まいこ/著) 星屑(村山由佳/著) ブータン、世界でいちばん幸せな女の子(阿川佐和子/著) 爆発物処理班の遭遇したスピン(佐藤究/著) セカンドチャンス(篠田節子/著) 道(白石一文/著) 墜落(真山仁/著) 明日へのペダル(熊谷達也/著) 短篇七芒星(舞城王太郎/著) ファイナル・ツイスト(ジェフリー・ディーヴァー/著)
- 随筆・詩などの文学 飛び立つ季節(沢木耕太郎/著) 本を読んだら散歩に行こう(村井理子/著) 居場所がないのがつらいです(高橋源一郎/著) パリの空の下で、息子とぼくの3000日(辻仁成/著)
- その他の本 チェリーのお菓子(藤野貴子/著) 疲れない山歩きの技術(栗山祐哉/監修) なぜ、認知症の人は家に帰りたがるのか(恩蔵絢子、永島徹/著) あいまい・ぼんやり語辞典(森山卓郎/編) 豊かな暮らしと“小さな農業”(望月健/編著)



『わたしたち』
落合恵子
河出書房新社



『筆のみが知る』
近藤史恵
KADOKAWA



『飛び立つ季節』
沢木耕太郎
新潮社

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などの協力をお願いします。

みんなの としょかん



市民図書館
TEL (921) 4646
FAX (921) 4896
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>



としょかんカレンダー

令和4年	日	月	火	水	木	金	土
9					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太字の日)は午後7時まで

まちの通信拠点、郵便局の成り立ち

近代日本の通信手段として定着したのは郵便と電報です。遅れて電話も登場しますが、緊急の連絡方法としては電報が一般的となり、商業取引等でも重要な情報連絡手段に電報が用いられていました。これらを取り扱うのは郵便局で、当時いわば地域の通信拠点の役割を郵便局が担っていた、と言えるでしょう。



～公文書館だより⑩～

は参道の泉屋で祝宴、太宰府天満宮に一同参拝して散会となり、間もなく開催される一千年大祭と相まって華やかに事業がスタートしたことが伝えられています。同43年には電話も開通、これをもってひとまず太宰府郵便局には近代的な通信設備が出揃い、太宰府の通信拠点は明治期を通じてようやく完成を見ました。

太宰府地域での郵便事業は明治5(1872)年、宰府村に郵便取扱所が置かれたのが始まりで(明治7年宰府郵便局、同14年太宰府郵便局)、電報を取り扱う電信事業については、近隣では先行して二日市に電信局が設置されますが(明治30年)、太宰府では、太宰府天満宮御神忌一千年大祭の年である明治35年に電信受取所が郵便局内に置かれました(『太宰府市史 通史編Ⅲ』)。同年3月7日の福岡日日新聞には、前日に開催された電信受取所開始式の様子が載っています。電信受取所が置かれる太宰府郵便局の建物は新築で、開始式当日は真新しい郵便局前に式場が設けられ、音楽隊も呼んで来賓の祝辞に花を添えました。式後

太宰府町の還暦を祝って昭和29(1954)年に作られた冊子『太宰府』には、太宰府郵便局前での記念撮影写真が掲載されています。2階建て半切妻屋根の建物正面には右から左へ「太宰府郵便局」の文字が掲げられています。玄関脇には当時の局長他8人の局員と2台の自転車が並び、昭和10年に改築された後の姿ではありませんが、在りし日の太宰府郵便局を思い浮かべることができます。

【バックナンバーはこちら】

ページID 7241

太宰府市公文書館

藤田 理子